

これでいいのか 市民の合意ができていないのに

「清水駅東口への移転あいき」は大問題

三月七日、田辺市長は桜ヶ丘病院の移転先を現在の清水庁舎とすることとし、あわせて清水庁舎を清水駅東口に移転・建設する案を発表しました。しかし、今回の清水庁舎移転は、桜ヶ丘病院を移転させるため、玉突きで清水庁舎の移転を强行しようとしているとしたが思えません。事実、二年前に策定した静岡市第三次総合計画には区役所の移転のことなど一言も触れられていません。

なぜ病院を津波浸水区域に移転させるのでしょうか。

現庁舎のある場所は県の津波浸水想定区域です。田辺市長は病院は低階層を柱だけにしたピロティ構造にするから大丈夫だと言います。しかし、東日本大震災で被災した、いわき総合病院の医師は、次のようにのべています。

り、水を排除した後でも直ぐに病院機能の回復は望めない。これら浮遊物等や下水道が使えない影響で衛生状態の保持が困難となるため、病院機能の低下は一時的なものとは言えず、復旧までに長期間を要する」（静岡県危機管理部資

「あり方検討」のはずが「建設検討」に

今回、静岡市が区役所検討委員会を補佐する業者を募集するための「業務委託仕様書」では、「あり方検討」がいつの間にか「建設検討」になっています。議会への報告もなしに、勝手に「建設検討」

に名称を変更。しかも清水駅東口への移転を強く意識した内容となっています。さらに「検討委員会」の運営、パブリックコメント集約まで業者まかせという無責任な内容となっています。

黙つていれば、年内に

備室を新設し、「建設検討委員会」の基本構想は年内にまとめてしまおうという急テンポです。このように「清水駅東口への移転ありき」で清水庁舎の移転は区民の同意なしに急速に進められようとしています。

日本共産党静岡市議会議員団ニュース

二〇一九年五月

日本共産党静岡市議会議員団
TEL 054-254-2111
(内線4541)

